

日本最南限の野生のシカ

阿嘉島や慶留間島などに生息する鹿は、ケラマジカと呼ばれます。17世紀の中頃に薩摩から慶良間に持ち帰られたと「琉球国由来記」に記されています。本州産のニホンジカに比べると小柄で、雄の角も短めで体毛は少し黒っぽい色をしています。普段は山林内を中心として生活していますが、海岸近くでもよく姿を目にすることができます。

亜熱帯地域に生息する貴重な野生の鹿として、国の天然記念物に指定されています。

秋の繁殖期になると、オス同士が角を突き合わせて力を競い合います。日が沈み辺りが暗くなる頃、浜辺などでオス同士の闘いを見ることができるかもしれません。